

## 第4学年 道徳科学習指導案

指導者：T1 教諭 長橋 政之

T2 講師 小池 裕也

### 1 主題名 相手の気持ちに寄り添って B-（6）親切、思いやり

### 2 主題について

#### （1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、B「主として人との関わりに関すること」の「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」と関連が深い内容である。

思いやりとは相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。思いやりの気持ちは相手を思い、相手のことを考えることから始まる。そして、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像し、気持ちに寄り添っていくことが必要である。その上で、親切な行為を自ら進んで行うことが大切である。活動範囲が広がり、様々な人々との関わりが増えてくるこの時期の児童にとって、自分の考え方や感じ方とは異なった捉え方があることに気付いたり、相手の気持ちを察したりすることは重要だと考え、本主題を設定した。

#### （2）児童について

本学級は、男子6名、女子10名、計16名の学級である。本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

（7月11日実施 男6名 女子10名 計16名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている） C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
だれに対しても思いやりの心を持ち、親切にする。	5人	11人	0人	0人
正しいと思うことは勇気をもって行う。	6人	7人	3人	0人

本学級は友人間でのトラブルはほとんどなく、友達との関係は良好である。困っている友達がいるとさっと手を差し伸べる姿も見られる。これは、調査結果から分かるように、ほとんどの児童が思いやりの心を持ち、親切にすることの大切さを理解し、実行に移すことができているからだと考える。一方、「正しいと思うことは勇気をもって行う」をCと答えた児童3名は、普段の生活においても、率先して行動することが多いとは言えない。善悪の判断はできているが実行することの難しさを実感し、自分の行動を客観的に捉えている児童だと言える。

また、毎週金曜日の業前に実施している「対話タイム」では対話を重ねることによって、自分の考えを伝えようとする児童が多くなってきた。また、友達の意見に質問する児童も見られ、相手の話に関心をもって聞くことができている。

#### （3）教材について

① 教材名 「ゆうきの心配」 出典：「新しい道徳4」 東京書籍

② 価値 B-（6）親切、思いやり

## ②「あすなろノート」の活用

授業の最後に対話を振り返り、次の順序で「あすなろノート」に書かせる。

- 1) 友達に残った意見を記入させることによって、自分の考えと比較したり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができるようにする。
- 2) 対話を振り返り、本時の授業を通して考えたことを書かせ、自己内対話させることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深めることができるようにする。

## (6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言①、②を踏まえ、対話の中で児童に考えを積極的に発表させ、考えを取り上げてほめたり認めたりする。

提言③、④を踏まえ、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定し、自分の考えをノートに書かせる。

提言⑤を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。

## 3 本時の学習

### (1) ねらい

ぶつかった相手を気遣うまことと、まことを心配するゆうきの行動や思いを考えるを通して、思いやりには様々な形があることに気づき、相手の状況に合わせて進んで親切にしようとする心情を育てる。

### (2) 準備物

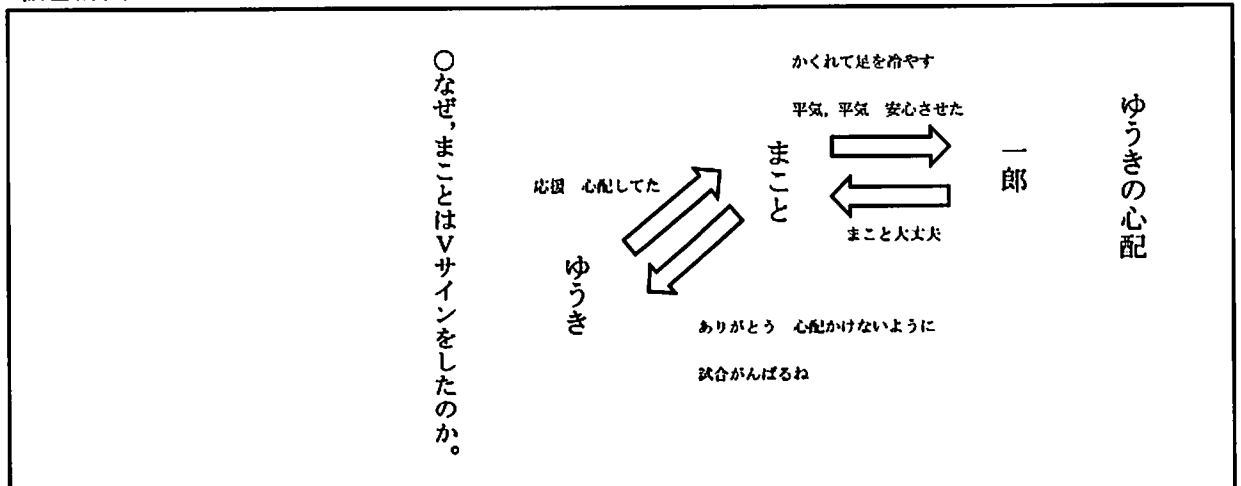
- ① 教師：掲示用挿絵 ホワイトボード ネームカード ツールキット コミュニティボール
- ② 児童：教科書 筆記用具 「あすなろノート」

### (3) 学習過程（別紙）

### (4) 評価

○相手を思いやることについて、様々な角度から考えていたか。（発言、ノート）

### (5) 板書計画



### ③ 教材について

主人公のゆうきは、けがをした6年生のまことがぶつかった相手を気遣い、人に気付かれないうちにけがの手当てをする様子を見かける。声を掛けてもとりつく島もないまことに、ゆうきは一言励ましの言葉を掛け、その場から駆け出す。そんなゆうきにまことは笑顔でVサインをし、ゆうきも力いっぱいVサインを返すという内容である。

「明日の試合頑張ってください」と駆け出す主人公とそれにVサインで応えるまことの行動について考えさせることを通して、相手の立場に立って考えることの大切さに気付かせることのできる教材だと言える。

### ④ 教材分析（別紙）

#### （4）指導にあたって

親切や思いやりは、相手の気持ちを理解することや立場に立つことから始まる。相手の気持ちを理解したり、立場に立つためには自分のこととして考えたりすることが必要である。その上で自分にできることは何か、相手にとって何が親切なのかを考えて行動することが求められる。しかし、相手を思って行動したことが、必ずしも親切な行為として受け止めてもらえるとは限らない。親切や思いやりの形は様々であり、そのすべてを本時で取り上げることはできない。しかし対話の中で、起こりうる様々な状況や今までの経験を共有することによって、親切や思いやりについて広い角度から考える場としたい。本時はティーム・ティーチングで授業を実施する。T2が対話に入り児童とは異なった考えを意図的に提示することによって、多様な考えに触れることができるようにしたい。

#### （5）研究の視点

##### 【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

##### ① 自他との対話を促す支援の工夫

##### a 事前読みと課題設定

- ・家庭学習で教材を読み、授業で話し合いたい課題を「あすなろノート」に書かせることによって、児童が課題意識をもって対話を進められるようにする。
- ・事前に担任が各自の課題を集約し、いくつかの課題を絞る。それを朝の活動で一つに決めることによって、その課題に対して、自分の考えをもつことができるようにする。

##### b 対話中のツールキットの活用と問い返し

- ・「なぜなら～」のツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にし考えの根拠を明らかにして発表できるようにする。
- ・予想される反応を類型化し、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。

##### c ネームカードを用いた意思表示

- ・自分のこととして考える際に、ホワイトボードに話合いの観点を示し、ネームカードを使って集団の中の立場を可視化させることによって、友達の考えとの違いを理解させ、多面的・多角的な見方につなげることができるようにする。

別紙

3 (3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】	
事前	<p><b>【家庭学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材を読み、「思いやり」についてみんなで考えたい課題を「あすなろノート」に記入する。</li> </ul> <p><b>【朝の活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自が考えた課題の中から、教師が3つに選択しておき、本時で話し合う課題を全員で決める。</li> <li>本時の課題に対する自分の考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を事前に読ませ、話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもつことができるようにする。 【提言5】 ※①a</li> <li>登場人物等を押さえてから家庭学習に取り組ませることによって、教材の中にはだれに対しての思いやりがあるのかを考えさせる。</li> <li>課題に対する考えを「あすなろノート」に書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。 ※①a</li> </ul>	
本時 導入 2分	1 教材の内容を確認する。	<p style="text-align: center;">T 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容や登場人物をおさえることによって、教材の理解を分かりやすくする。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">T 2</p>
展開 展開 33分	<p>2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>選んだ課題(例) まことはなぜVサインをしたのか。</p> </div>		

	<p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、遠くの水道を使ったのか。</li> <li>・なぜ、まことは一郎が気にするといけなかったのか。</li> <li>・なぜ、ゆうきはそれ以上何も聞けなくなったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に児童が選んだ課題で対話を始め、なぜその課題を考えたのか理由を発表させることによって対話への主体的な構えを促す。</li> </ul> <p>【提言①, ②】 ※①a</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜなら～」というツールキットを活用し、自分の考えの根拠を明らかにして発表できるようにする。 ※①a</li> </ul>	
価値理解	<p>○この教材の中に出てくる「思いやり」とはなんでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうきがまことを心配しているところ。</li> <li>・ぶつかった一郎が気にするといけなかったまことの気持ち。</li> <li>・まことがゆうきにVサインしたところ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうきのまことへの行動、まことの一郎への行動について考えさせ、教材内の「思いやり」について黒板にまとめる。</li> <li>・教材の中の「思いやり」について考えさせることによって、「思いやり」には伝わる思いやりや伝えない思いやりがあることに気付かせる。そうすることによって、「思いやり」についての様々な形について考えさせる。</li> </ul>	
	<p>◎みんなは、自分の思いやりが相手に伝わった方がよいと考えますか。それとも伝わらなくてもよいと考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボード上の「伝わった方がよい」「伝わらなくてもよい」の場所に、ネームカードを貼り、自分の立場を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場を意思表示し可視化させることによって、友達との考えの違いを理解させるきっかけとする。そして、具体的な理由を考え説明させることによって、それぞれの立場についての理解を深められるようにする。 ※①c</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2のネームカードは少数の意見や中間に置くことによって、児童の思考になかった考え方に気付かせるようにする。</li> </ul>
自己理解			

	他者理解		<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される子どもの発言を類型化しておき、問い返しを教師が行うことによって、多面的・多角的な話し合いになるようにする。 ※①b</li> <li>・どちらか一方が正しいという考え方にならないように問い返しを用いる。</li> </ul>	
	人間理解	<p>【予想される反応A（伝わらなくてもよい）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わらなくても、相手のためになっていればよい。</li> <li>・相手のことを考えているんだから、伝わらなくてもよい。</li> <li>・その時伝わらなくても、いつか、伝わるかもしれない。</li> <li>・やりすぎると相手が困ってしまう。</li> <li>・伝わりすぎると、相手が何かしてあげなければというプレッシャーになる。</li> </ul> <p>【予想される反応B（どちらでもない）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時と場合によって違う。</li> <li>・伝わっても伝わらなくても、相手のためになればよい。</li> </ul> <p>【予想される反応C（伝わった方がよい）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝わらないと、おせっかいになるかもしれない。</li> <li>・相手に思いが伝わらないと、意味がない。</li> <li>・友達との仲が深まる。</li> </ul>	<p>【反応Aへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝わっていないかもしれないけど、相手のことを思ってやった経験はないかな。」</li> <li>・「自分の思いが伝わらないというのは悲しいことではないかな。」</li> <li>・「感謝されないと次もだれかのためにやろうと思わないのではないかな。」</li> <li>・「やりすぎってどういうこと。」</li> <li>・「お礼がほしくてやっているのかな。」</li> </ul> <p>【反応Bへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝わらなければいけない時ってどんな時かな。」</li> <li>・「伝わらなくてもよい時ってどんな時かな。」</li> <li>・「相手のためになっているのはどうしたら分かるのかな。」</li> </ul> <p>【反応Cへの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝わらなくても、相手のことを思ってやれば思いやりになるのではないかな。」</li> <li>・「伝わらなくても、その人のためになっていればいいのではないかな。」</li> <li>・「なぜ深まると考えたのかな。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2は児童の意見をホワイトボードにまとめ、円座の中心に置き、児童の思考を可視化できるようにする。</li> <li>・T2が実体験を伝えることによって、思いやりについて多面的・多角的に考えさせるきっかけとする。また、身近な話題を例として出すことによって、児童にとって自分のこととして考えさせるきっかけとする。</li> </ul> <p>例：転んだ子どもをすぐに助けず、見守るということは思いやりなのかな。</p>

		<p>【予想される児童の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりは相手の立場に立つことが大事だ。</li> <li>・思いやりは相手の気持ちを考える。</li> <li>・自分に置き換えて考える。</li> <li>・時には見守ることも必要だ。</li> </ul>		<p>例：答えが分からない友達に答えを見せてあげることが思いやりなのか。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>自己理解  他者理解</p>	<p>3 心に残った友達の意見と思いやりで大切なことは何かを中心にノートにまとめ、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残った友達の意見を書かせることによって、友達と違う考え方や同じ考え方、似た考え方など、物事を多面的・多角的に考えさせる手立てとする。 ※②</li> <li>・対話を振り返り、本時の授業を通して思いやりで大切なことは何かを書かせることによって、自己内対話をさせ、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。 【提言③, ④】 ※②</li> <li>・数名の児童を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深めるようにする。</li> </ul> <p>◇相手を思いやることについて、様々な角度から考え、明らかにしていたか。 (発言, ノート)</p>	

教材分析表

教材名 「ゆうきの心配」 B- (6) 親切, 思いやり

ねらい ぶつかった相手を気遣うまことと, まことを心配するゆうきの行動や思いを考えることを通して, 思いやりには様々な形があることに気づき, 相手の状況に合わせて進んで親切にしようとする心情を育てる。

